

「余白」を紡ぐ豊かさ 言葉ではなく感性で受け止めて



秋元風花(中京テレビアナウンサー)

2002年、東京都出身。慶應義塾大学法学部政治学科を卒業後、25年に中京テレビ(名古屋市)へ入社。担当番組は「あさドレ♪」のほか、土曜午前9時24分から放送「あすリーとHOLIDAY」。

ジブリパーク を歩いて Vol.22

東海地方で中京テレビが平日朝に放送する「あさドレ♪」では、入社2年目の秋元風花アナウンサーが昨年からはジブリパークで天気の中継を担当しています。ジブリパークを巡る中で伝えることの根幹が覆されたと言語る秋元アナ。そのわけとは――。

言葉で照らす 多層的な文脈



初めてのジブリパーク中継は「エレベーター塔」から

未完成な自分を受け入れ 原石を磨き続ける大切さ

スタジオジブリ作品が描く「働く人のリアルな姿」にはいつも背中を押されます。冬場にマイナス4度の極寒の中で立ち続ける中継など、これまで体力的に苦しい日もありました。そんな中、「耳をすませば」で(月島雫ちゃんが自身の夢と葛藤するとき、おじいさん(西司朗)がかかる「初めから完璧なんか期待してはいけない」「自分の中に原石を見つけて、時間をかけて磨くことなんだよ」という言葉に思わず涙があふれました。



「オキノ邸」で『魔女の宅急便』の世界へ

普段、生放送のニュースやお天気を伝える中で、「言葉を紡ぐとはどういうことか」を日々模索しています。例えば、雨が降ると、以前の私なら「あいにくのお天気です」と言ってしまうがちでした。けれど、視点を変えれば、農家さんにとっては待望の雨かもしれないし、ダムの水不足を救う恵みでもあります。一つの物事に多角的に光を当て、さまざまな立場の目線に寄り添って言葉を選ぶことが、言葉を紡ぐ本質だと天気の現場を通じて学びました。

放送にのせる以上は完璧を届けたいと思う反面、2年目の自分にはできなくて落ち込む日があります。昨年、「地球屋」(青春の丘)の中継現場で「バロンの魅力を十分伝えきれなかった」という時間との戦いによる悔しさも経験しました。けれど、未完成な自分を受け入れ、手間をかけて磨き続ける大切さを教わり、心

が深く救われました。『魔女の宅急便』のキキが理不尽な現実にあふつかりながら踏ん張る姿もそうですが、ジブリは過剰な成功体験ではなく、葛藤しながら泥臭く生きる人間の姿を描いているからこそ、大人になった今の私の胸に強く響きます。

全てを語り尽くさず 解釈や会話に委ねる

きょうもジブリパークには世界中から多くの方々が足を運んでいます。「自然の叡智」をテーマにした愛知万博の跡地という豊かな自然の中で「もののけ姫」のような「自然と人間」という力強いメッセージを世界へ発信し、東海エリア全体へ人々を呼び込む観光の起爆剤でもあります。

ジブリパークの空間はあえて説明書きや明確な結論を置かず、受け手の解釈や訪れた人同士の会話に委ねているので、とても新鮮で心がひかれます。私はもともと映像作品や美術品を鑑賞するときは解説を目にしないタイプ。テレビは1から100まで説明して消費を完結させてしまいがちですが、ジブリパークでの中継を重ねた経験から「あえて伝えきらない、余白を残した伝え方をしたい」と考えています。1から50までをテレビで届け、「実際に足を運んで自分の感性で受け止めてほしい」と残りの50はヒントやワクワクする余白として残す。王道と



好きな作品は「千と千尋の神隠し」

はかけ離れたテレビの伝え方ですが、ジブリパークであれば十分魅力が伝わります。語り尽くさない非言語の奥深さをしっかり意識していきたいです。

中京テレビ 「あさドレ♪」

月～金曜の午前5時50分から、愛知、岐阜、三重の3県向けに生放送する報道番組。秋元風花アナウンサーが担当する天気の中継は不定期でジブリパークから行っている。

前回は
山下明彦さん。
過去の記事は
ウェブサイトで
公開中



チケットは予約制